



# 山形市之高山形南高 東京同窓会報

第2号

発行人 千代田区平河町2-6-3  
山形県東京事務所内  
山南東京同窓会事務局  
TEL. 03-5212-9026  
斎藤 常 男  
編集者 鈴木 隆

伝統ある運動部の中で第1期黄金時代を築いた野球部の強者たち（昭和22年）

前列右から3人目が加藤忠利、前列左端が千歳貞治郎、優勝旗の加藤仁主将の各氏



地上の楽園、郷土を代表するもの……月山・最上川・サクランボ





# 親睦と交流 盛況だった 平成16年度総会



田中勝吉 (南8卒)

「人の出会いは一生もの」という言葉が有りますが、若き頃大変お世話になった先輩、同じ釜の飯を食べ終生の友となった同級生との、年一回の出会いを楽しみに出席しております。



※ご支援ありがとう —— 新潟県中越地震義援金 82,404円 (山形放送経由)





われら南高家族……

# みんなが集う 楽しい同窓会



富田隆造 (南11卒)

一昨年初めての「山南東京同窓会」に参加、懐かしの同期、諸先輩、後輩との再会で盛り上がった。

今後当会には積極的に参加し、コミュニケーションを図りたい。



※ご協力ありがとう —— 東京同窓会のフラック資金 173,485円 (103名) 集まりました



### われらが会長のあいさつ



1人でも多く総会に出席を!

東京同窓会会長  
齋藤 常男

同窓会活動はむずかしい!  
なかなかうまくいかない。

いま、東京同窓会の発展と活動について、模索と試行が続いている。何を、どうすれば、同窓会の旗の下に結集し、会の目的実現と効果的な活動を促進できるか、役員全員で検討している。

常任幹事会と学年幹事会は、活動上の障害（活動運営の経験が少ない、同窓会会員の結びつきが弱い、活動資金が乏しい、時間的距離的な問題で諸会合が少なくなり参加者の確保がむずかしい、母校への貢献はまだまだ、会の存在が浸透していない）を克服すべく、母校愛をもって献身的に活動をしている。

これからも、千里の道も一歩からと、会員みんなで力を合わせ、課題を一つひとつ解決していけば、団結力のある同窓会の建設ができると確信している。

同窓会は同じ校舎で共に学び、共に語り合った仲間組織である。同窓会でお互いの健在を確認し合い、共に語り合い励まし合うことは、人生の中で意義深いことである。ここに同窓会の存在の意味があると思う。11月18日（金）は、総会開催日である。総会は話し合いの場。心の青春を求めて、参加しよう。

空気と光と友人の愛。これだけ残っていれば、人生気を落とすことはない。

～ゲーテ  
以上



### 本部会長のごあいさつ



「同窓文化を育てよう」

山形県立山形南高等学校  
同窓会会長 千歳 貞治郎

山南同窓会東京支部（略称山南東京同窓会）が本格的に出発いたします。えりすぐられた役員各位は同窓会本部の方針を理解し豊かで力強い同窓文化を創られることを期待いたします。いま人間の生き方が問われているように同窓会は母校の発展に寄与できるか、同窓友和の礎を築き南高の未来を担保できるかと自問しております。

さて皆様が気骨稜々の青春を謳歌した母校の原点は山紫水明のふるさとの山河であり父母おわします青山の地にあります。

65年の伝統と18,000名の同窓会は献身的に母校の隆昌を支え母校もまたこれに答えております。

後発の東京同窓会は本部と密接に協調を図り唇齒輔車の理想的関係に立ち堅実に歩を運んで参りましょう。末尾に会報第2号を上梓されるにあたり編集の陰徳を重ねられる担当者に敬意を表します。

以上

### 母校の校長先生のごあいさつ



山形南高等学校  
校長 佐藤 利廣

南高東京同窓会の皆様方には、母校の教育活動に温かいご支援、ご協力をいただいておりますこと

ことに感謝申し上げます。今年度から母校への勤務となり、この上ない喜びでもあり、同時にその責任の重さを感じております。

平成17年度は、国公立大学160人以上合格、各種全国大会20種目以上出場という数値目標を掲げ、学校経営に当たっております。

生徒会スローガンは、「極」とし、毎朝、この看板を見て1日が始まります。今では、道行く人の関心も高く、東原名物の「南高スローガン」となっています。同窓会の方々には、誇れるわが母校となりますよう「文武両道」の校風と伝統を進めながら教育に全力を傾注してまいりたいと思います。

南高東京同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げます。佐藤校長は南高15回卒です。



## 古稀を迎えて

### 千歳の松も70年



#### 🍒 歌ってます 🍒

山本 芳子 (南3卒)

私は今、コーラスに楽しみを見つけています。若い人達に交じて練習は大変ですが、ステージに立つ度に幸せな感動を覚えます。何事も消極的にならず歌い続けようとおもいます。



#### 🍒 古希を迎えて 🍒

石澤 澄雄 (南3卒)

南校3回期を卒業し多くの方々にお世話になり、古希を迎えたこの年も、1泊2日で同期会を開いた。共に学んだ学友と楽しく過ごすことが出来幸せに思う。



#### 🍒 古希は過ぎても 🍒

千場 光男 (南3卒)

55年前、西校舎の1年5組のクラス会を一期会と称して毎年、山形の温泉巡りをやる。南高として初めての男女共学のせい出席者は40%、男女半々の艶やかな会である。東京方面からも5~6人が参加。8回目の今年は7月に蔵王でやった。「古希を過ぎたのに良く飲むし、食べるし、歌うし元気なクラス会ですね」とホテル側に言わせた程である。今までも一期会、東京二八会、東京同窓会に殆ど出席。「空はコバルト」を大声で歌うと何故か新鮮な力が湧いてくる。



#### “西高よりエール”



ふるさとの自然に感謝

小石 マサ子 (西高38卒)

春は芽吹きの新緑を楽しみ、夏は千歳山の松の木陰で憩い、秋は紅葉と黄金色の田んぼ、冬は雪の中。大自然の中での通学の途中に南高の木造校舎と元気のよい運動部の掛け声がありました。遠く故郷を離れた今でも、あの頃のこと懐かしく、自然と青春時代に感謝しています。(船橋市在住、会社役員)



#### 🍒 古稀の意味するもの 🍒

浅黄 優喜 (南4卒)

十亥年の皆さんは、今年古稀を迎えます。古稀とは「杜甫」が“人生70年古来稀なり”と詠われたことに由来する。世界大戦の終戦時小学4、5年生であった我々は、戦前派か戦後派のどちらに属しているのか悩むこともある。南高出てから51年。高度成長という特別列車からやっと降りて、子供も巣立ち孫も出来た昨今、残りの人生を泰然自若と構えてみる。やっと人の道の足跡が残せたのか。これと思うと古稀の意味は大きい。



#### 🍒 古稀の祝い 🍒

加藤 芳男 (南6卒)

山形・東京の同窓会が古稀の祝いをするというので自然の豊かな天童温泉に参加。

会いたくて、会いたかった人に会える、会った途端に長い時間を飛び越えて、打ちとけあえる、笑いあえる、そんな心が弾む同期会であった。

高齢化の時代、やっと古稀を迎えて、これからの人生、仲間との和、話、輪を大事にしたい。

ふる里は離れて想うがよし。そして楽しく集い、語らい、飲むもの……それぞれの人生持ち寄り同期会。



# 蔵王・月山・千歳山…心のふるさと、我等が母校

## 学校出てから50年…25年



### 往時茫々

寺崎 誠作 (南1卒)

南高第1回の我々が入学したのは、昭和20年4月、その年の8月には太平洋戦争が終わった。

今から60年も前のことで往時茫々である。

終戦の玉音放送が雑音でさっぱり分からなかった事、校長が上半身裸になり壇上で切腹の仕方を教えた事、使っていた教科書のあちこちを墨で消して使った事、グラウンドをおこして豆をまいた事、蔵王の坊平に開墾に行った事などを覚えている程度である。歴史と地理の教育が禁じられ、その後解禁されたが、私はその後も習う機会が無く、あの戦争がどうして始められたのか、いまだにその歴史の真実の部分がよく分かっていない有り様である。

毎年8月になるとマスコミで、戦争は悲惨で嫌だと語り継がれ、全くそのとうりであるが、それとともに、どうしてあの悲惨な戦争が始められたのかも同時に語られる必要があるのではないかと思ったりしている。



### 南校出てから25年

奥山 俊一 (南28卒)

思い起こせば、仕事の関係でいろんなところに暮らしました。

まじめに働いて、まじめに引っ越しました。21年の間になんと19回の移転です。これまで住んだ町を列記します。学生時代は川越、社会人になって札幌～函館～名古屋～襟裳～丸亀～札幌～千歳～知床～早来～グアム～デトロイト～シカゴ～クラリダ (アイオワ州)～千葉～竜ヶ崎～つくば～下館～横浜～牛久

これらの町は建築現場の所在地で、現場監督として働いてまいりました。現在は、施工部門から営業部門に配置換えになり、牛久から千葉の支店に勤務しております。今後の楽しみは、自分の手がけた建物を見に行くことです。



### 南高出てから52年

吉野 禮三 (南3卒)

同級生の中で、最後に古希を迎えたと、早生まれ同士で笑いあった。臨戦態勢で国民学校ができて最初の1年生、5年生で終戦、

学制だけではなく何もかも変わり、世の中は乱れ、そして、この国は実に見事に復興した。

新制中学校も最初の1年生、2人の兄の後を追って南高に入ったが、1年間は西校舎に通った。もはや南高を出て52年。少年老い易く…である。

往年の石炭業界は、炭鉱労働者は35万人を数え、日本のエネルギーを支える基幹産業であり、政治学を志したものとして、最もやりがいがあるのではないかと三井鉱山(株)に入った。リーディングカンパニーの一員として、世の中の変遷を見つめ、国内の石炭とは最後までお付き合いをさせてもらったが、左翼にあおられた労働組合、1ドル原油、スミソニアン合意による円の大幅切り上げ等で、限りない合理化も限界に達し、終焉を迎えた。会社の先輩は、仕事は自分で作って、悔いを残さずやれと、励ましてくれたが、家族には迷惑をかけたようだ。

お盆が近くなると、終戦の詔勅を聞き、その日の中に荷物をまとめ、疎開先干布村(当時)から荒谷の橋を渡り、歩いて実家に帰る途中みた螢の乱舞が目につかぶ。今は都会の真中に身をおいて暮らしているが、旧友との出会いほど楽しみなものはない。



### 学校出てから46年

原田 敏幸 (南9卒)

私は東京に出て、教職に就いた。教員生活38年、悔いはない。教育は心の世界であり、

奥が深い。それでも、適当に頭をつかい、適当に体をつかい、疲れた時はお茶が飲めた。そして最後は四谷駅近くの小学校校長。いくら働いても、超過勤務手当はつかない。自己満足的充実感、とでもいうのか。終わって今考えると、「人様の子を教育する」などと言っていたことは、何とすばらしく何と恐ろしいことか、と考えている。



# 思い出の写真、あったよ！



濱田酒造での合宿

この合宿の成果により県大会で優勝し、24年まで県内無敵の黄金時代を築いた。濱田氏には本当にお世話になった。

昭和22年7月の写真



ハイポーズの鎌田 寛



## 草創期から 第1期黄金時代へ

加藤 忠利 (二中5卒)

当時の野球場は現プールの所に手製板張りのネットを設置し、球がこぼれるのでボール拾いが大変だった。グラウンドとは名ばかり、戦時中は食糧増産の畑だったので、荒地での小石拾いローラ掛けは大事な日課であった。

## バッテリーの名コンビ

若き日の勇姿は？

地主 三千男 投手と私



この方です。



(左)地主投手



当時、山二中軍の右翼(ライト)をかためておられた千歳会長

## 私の近況

小学校で教えました。

東海林 俊六 (南10卒)



60歳で定年退職後、半年間市内の小学校で先生と生徒を対象にパソコンの使い方をおしえました。画面が出ると驚きの歓声を上げていました。とても充実した仕事でした。



## 思い出の写真

前列の左が私 小原 征四朗 (南9卒)

第7回全国高等学校柔道選手権大会が、昭和33年8月岐阜市にて開催、予選リーグにて、今大会優勝校の東海高校(愛知)に善戦するも敗れ、関西校(岡山)に引き分けと無念の涙。そして、宿舎に戻り、冷やしておいたスイカに武者振り喰らいついたのがこの写真。夜は長良川の鵜飼いを岸边から見物、その時に山口先生が突然、“おーい、舟方さんよ！”とか、“粹な黒べい!!”とお富さんの歌をバンカラ声で唱われたので、まわりの人はビックリ。私達も高橋正義先輩と共に部員一同、がなりたてました。それでいくらか悔しさも忘れましたが、あの時の事、今もなつかしく強烈に思い出されます。





### モンゴルの气象台

駒林 誠 (二中5卒)

気象庁を退職後、社会主義から市場経済へ移りゆくモンゴル国で働く機会が2回あった。初めの経験を「大草原の国モンゴルの气象台」と題して8年前に山南高創立記念日に新築となった講堂満杯の在校生の前で話す栄があった。2回目は1999年夏のモンゴル観測史上最高の猛暑と2000年正月の厳冬を中心とする空前の雪害(ゾド)を体験した。国営ラジオの日本語短波放送モンゴルの声のインタビューを受け、私は「この夏」と「この冬」をそれぞれ12,085メガヘルツで全世界に話した。



### ペルーの体験記

林 榮容 (南8卒)

1974年に南米ペルーの駐在員となり、家族共々約2年半首都のリマで生活をしました。その間「戒厳令」を2度経験しました。事務所の前で実弾が飛び交い、事務所から一歩も出られず、外出禁止令は夜の8時～翌朝5時迄ですが、早朝着の便で到着する取引先を出迎える時の緊張感は今でも思い出します。私は外出禁止令の解ける5時に仕度をして、5時15分に家を出ました。兵隊の時計が狂っている事も念頭に入れませんが、撃たれる可能性もあるからです。それでも交差点では必ず徐行して、兵隊の動きを確認しながら、空港に向かいました。

## 私の海外体験 南高サムライ、世界に翔ぶ!

その後フジモリさんが大統領になられて、軍事政権から解放されましたが、泥棒、スリの多い国でした。



### ソウルの松茸

佐藤 守彦 (南14卒)

少々古い話となりますが、1978年～88年の五輪までの10年間、会社のソウル支店に駐在して参りました。正に韓国の激動の10年間で、着任した年には朴大統領の暗殺、光州事件と続き、ランゲーン事件、大韓航空爆破事件、更に教科書問題の等々、家族共々貴重な体験をして参りました。当時のことを思うと今の韓流ブームなど誰が想像したでしょうか。内外共に真に厳しい時代でした。そんな中、世界柔道ソウル大会開催時、恩師の馬車(山口孝次郎先生)が藤巻先輩(現・県柔道連盟会長)、当時の板垣会長達と観戦に来韓、その折全員で我が家に寄られ、マツタケを沢山食べて大感激したと、今も会う度に話が出て、思い出話に花を咲かせている次第です。



### 夜だけのカナダ

奥山 俊一 (南28卒)

30歳の頃、仕事の関係でデトロイトに住んでいましたが、ダウンタウンは夜間の治安が全米一悪いと言うことで、タクシードライバーでさえ行きたくない所です。そんな訳で、酒を飲みに行くだけなのに、パスポートを持って比較的治安のいい河向こうのカナダへ(国境を越えて)行っていました。夕方仕事を終えてから会社の同僚と連れだって運河の下のアンダーパス(検問所)を通り、他国(カナダ)の夜の街で酒を飲み、夜中に国境を越えて戻ってきました。こんな体験を幾度もしておりました。そんなわけで、カナダについては「夜のカナダ」しか知らないはめになりました。

● 外国旅行をする時は“人間の総合力の闘い”となる。覚悟、忍耐、度胸、好奇心、細心の注意等の実践の場だからである。まず飛行機に搭乗前に死を覚悟する。食えない食物に耐える。異邦人と接するには度胸がいる。そして危険な好奇心。殺されないように用心。雑な服装もそのため。こうして成田にたどり着いた時、時差ボケと言われぬ満足感が残るのである。

● No.1の夕暮れショー  
エメラルドの海岸の中に立つ忘れ物のような巨大な岩山の上。眼下にビーチまたビーチと五つも続く。白く光るココナビーチの横には階段状の白亜の建物群。雑念を捨て、時を忘れてたたずむ。——何も要らない、幸せも不幸も。やがて太陽は壮大な儀式を終えて沈み、残るのは灰色のため息と灯。ここは南米のリオ。われ思う世界一の絶景なり!





## 「アートの仕事」

作山 登喜子 (南4卒)

私は現役で青山の織絵ギャラリーでアートの仕事をしている。

タピストリーや版画、彫刻、絵画、ガラスといった美術工芸品を建築空間のアートの装飾に、ホテル、オフィス、医療施設、老人ホーム、一般住宅など生活の質的向上を意識し総合的に環境を創り出すために様々な形でアート計画に参加する仕事です。病院の場合は不安や緊張を感じやすくなっているクランケにアートを通じて癒し効果を、住宅にはアートでほっとするひと時を過ごせるような作品を提案しております。自分も癒されながら、まだまだ続けます。

## ロシア民謡に魅せられて

滝口 武志 (南9卒)

在学中、道具の持ち運びの少ない「音楽」を選択し、森山先生の素晴らしい指導を受けたことが今の自分につながっている。7名で発足したブラスバンド部に属し、全校朝礼でブカブカやったこともある。後輩にハラショー!

ロシア民謡の演奏普及活動を行う「合唱団白樺」は55年の歴史を持ち、私が責任者となり、団員約80名。3年前に100名を連れてモスクワ等で公演活動を行い、国立楽団と共演し大盛況。昨年も日本フィル交響と共演。2千名の聴衆と感激を共にした。南高OBと村川千秋先生(1回卒)指揮で共演。声の出る限り建築コンサルの講演と合唱の両輪で走りたい。



右が筆者

### ● 地獄のワンマンショー

日本人は祭りが好きだが、花火の爆音が1日中響いたらどうだろうか。南米のイグアスの滝は全て爆音の中にある。初日はアルゼンチン側から、頭上の落下を見上げ、眼下の急流にすくみ、熱帯のランヤパパイヤを見て散策。2日目はブラジル側から轟音の中を歩く。恐ろしくてスリルな地の底の体験である。

## おもしろいこと、やってま〜す



## 伝統文化

### 私の長唄

武田 幹雄 (南8卒)

書道、絵手紙、和紙握り絵等の手工芸作品や、茶道、華道、日本舞踊、歌舞伎、能楽、箏曲、



長唄等の芸能は日本の伝統文化として受け継がれている。これらの伝統文化は奥深く、私の長唄も独唄(ばい)では、声質、声量、声色の微妙な感覚の狂いを1人で判別したり、整調することは至難の技である。やはり師匠の前に正座し、三味線と口移しで伝統を守り受け継ぐ。つまるところ日本の伝統文化の奥深い本質を守るには、師匠に師事し、そして極める。これ即ち「道」であろう。

## 海外派遣



田中 満雄 (南10卒)

自衛隊が、イラク人道復興支援の為にイラクへ派遣されてからは、1年半。イラクのサマワで



は、厳しい治安状況のなか、今日も隊員たちは、医療支援、公共施設の復旧整備等に黙々と働いております。派遣隊員、留守家族の皆様に対して、国民として、また防衛庁OBとして心から感謝しております。このような困難な仕事も、国民の支援があればこそ出来ることであります。派遣隊員の諸君もサムライの心を残せるよう頑張ってください。

## 思いもかけない仕事



豊嶋 豊雄 (南14卒)

南高14回卒の豊嶋です。私は生まれてこの方59年間、一度も美容院に行ったことがないのに美容室のFCチェーン本部の社長(サラリーマン)をやっています。親会社(サンクス)がこの会社を5年前に買収して私にお鉢が回ってきました。関東で140店をFCで出店しています。店名はユアーズ、CLiC(クリック)、Blossam、Esprit等で駅前、ショッピングセンターなどにあります。お近くにありましたら、皆様は結構ですから、奥様、お嬢様ごひいきにお願いします。





# 文学アンドアート

## エッセイ

### 風光る



森 寛爾 (南4卒)

眩しい新緑五月の爽やかな風の中  
 少年野球地区決勝大会での事、接戦・接戦ワイワイ  
 又接戦小学校四年の愛孫に2アウト満塁絶好のチャンス  
 で打席が回ってきた。熱狂のあまり、「アキヒロ！頑張っ  
 ていけ！良くボールを見ていくんだ！」と大きな大きな  
 声で叫んだ。  
 隣にいる嫁に「お父さん！お父さん！違うでしょう」と  
 袖を強く引かれた？？？と同時に3塁コーチをしている  
 腹の少し出っ張っている長男が怪訝そうにこちらを振り  
 向いた。孫の名を呼んだつもりが30数年前の息子の名を  
 呼んでいたのです。孫の勇姿が少年時代の息子にそのま  
 まそっくりなのです。妻と嫁にさんざんでした。さて、  
 不思議なものです。祖父・父・兄弟・私そして息子たち  
 そして可愛い孫たち、みいんな みんな「右耳の裏」に  
 ゴマ粒よりも小さな「穴」があるのです。お茶目な女の  
 孫にさえ、ちっちゃな ちっちゃな可愛い穴がポツン  
 とあるのです。今次男の嫁のおなかの中で4センチ8ミ  
 リの孫が頑張っています。安心して出ておいで！じいじ

# 南高に文化あり



が居るぞ！と叫びたい気持ちです。  
 12月の初旬に初対面です。まずは右耳の裏「ゴマ穴」を  
 確かめること今から実に楽しみである。  
 もし無かったら……絶対にそんな事無いよな！じいじの  
 DNAだもんな。このかけがいのない、いとしい家族が  
 人としての道を、ふみはずさぬように妻と一緒にあって、  
 いつまでもいつまでも見守って生きたい。まもなく古希  
 を迎える私の平凡な唯一大きな願い事なのです。



## 音楽に生きて

尺八演奏家 山口 連山  
山口 輝明 (南29卒)

大学卒業後(山形大工学部)、  
 日立系の会社でC V C F (無停電  
 電源装置)の開発設計に携わること3年。退職後  
 尺八演奏家として生きるべく東京さ出はて来て  
 19年。

感動した仕事の一つに、16年程前勇退間もない  
 サッチャー元英国首相が来日した際、NTT小島  
 会長主催晩餐会で邦楽の生演奏を入れることが急  
 遽決まり、当日の午後連絡を受けて、わらわら会  
 場へ。緊張の中、邦楽とビートルズのメロディー  
 数曲を演奏しました。かって『鉄の女』と呼ばれ  
 たサッチャー氏は小柄で、終始穏やかな表情であ  
 ったのがとても印象的。



## 謡曲

庄司 政美 (二中1卒)



私は、4年の春に陸軍特幹に  
 志願し、中国戦線で戦ってきた  
 が、戦後、上京して夜学に通いながら、都庁に65  
 才まで勤めた。その間、趣味として謡曲を稽古し、  
 77才の今も続けている。これも健康を保つ手段の  
 一つかも知れない、と思っています。

### 校友の出版本の紹介



続 勉強は定年からの面白書  
 著者 武藤泰敏 (南3卒)  
 東大医学部助教授から岐阜大  
 内科教授を経て蓄積した肝不  
 全の研究を中心に医学を解り  
 易く説明、大学長退職後の日中  
 交流、海外生活、能面作りの体験を平易な言葉  
 で活々と描く。人柄と謙虚さに感動する本。



不動産賃貸が変わる  
 著者 鈴木 隆 (南9卒)  
 筆者は不動産業界のレベル向上のため30年の  
 プロとしての実績と自覚から、業界の正しいあり  
 方、得する借り方と正しい貸し方、国際体験  
 から学んだ日本人の特性と習性をずばり本音で  
 書いたもの。  
 筆名は大江隆司 定価1,260円 17年5月刊  
 アパート・マンションの最新事情  
 発行は週間住宅新聞社 TEL. 03-3209-7721



# 短歌

千場 光男 (南3卒)

茂吉を憶う

蔵王嶺に茂吉の歌碑の建てられし昭和九年に我生まれたり

我と似る茂吉胸像の禿げ頭撫でしところをカメラに収む

あかがねの色になりたるはげ頭

かくの如くに生きのこりけり

茂吉

ふるさと山形

「むすこくて」ほっだななどの方言を藤沢周平自伝に残す

朝風呂に浸かりて歌う故郷の民謡のメドレー友と心地良し



## 私流でやってんだす

画家 横尾 正夫 (南6卒)

南校に入学して間もない頃だったか、橋本先生に、お前とお前芸大！といきなり言われたのが今の私の原点になった。芸大から電通へ、油画科から新卒として民間の企業に就職などしないものらしいが日本の経済の成長と一緒の様な会社で楽しく過ごした。しかしサービスという実体のないものに不満を感じ早めに退職した。本道の画業に戻り、日本の各地にファンの存在を感じ、多少なりとも生き甲斐も感じている今日この頃です。



## 華オレ流に生きて

佐藤 博夫 (南9卒)

入学から50年。3年の時、初の公選による応援団長になり、県内で応援した競技が全て優勝。更に全国、東北大会でも輝かしい成績。いつしか地味な性格から華やかな人間に変身し、同期会諸君へ呼びかけ、飲み会は「一土会」、ゴルフは「あけび会」と称し、常に呑喰道楽流的に、長年仕切ってきたが、一昨年に凝りすぎ？病にて、自主降板し、ジミ人間に変身して還暦。健康第一は、華九元気印で。

佐藤さんは公私共に名応援団長と言えます。



## インデアカと私

高井 貞太郎 (南11卒)

15年前インデアカと言うスポーツに出会いました。バトミンのコートを使い1チーム4人で赤い羽根のついたパットを追います。ルールは6人制でバレーと同じネット(2m15cm)が低いので年令に関係なく楽しいスポーツです。毎週1回練習しその後、仲間といっぱい！(これが目的)これが私の健康管理とストレス解消法です。



# イン東京



## 技術立国日本の基盤

小関 康雄 (南2卒)

平成17年4月、東北大学教授らとの連名で、文部科学大臣賞科学技術賞を受賞した。青少年のための科学教室をわが国で初めて実施し、12年に亘るその功績が評価された。私がKDDの常務取締役在任中、母校東北大学工学部で国際電気通信技術の講義をする機会に、東北大学電気通信研究所の中鉢賢憲教授と、日本の立国は科学技術の発展にある、青少年に科学技術を志す機会を与えることが重要として、「夏の科学教室」を多くの先生方の努力により、財団法人国際コミュニケーション基金の助成を受けて、平成6年から実施、中学生延433名の参加を得た。感受性ある青少年に科学技術を志すきっかけを与えることは、わが国の発展のため重要なことと考える。



## 私の隣人は 新宿高層ビル

舟橋 一夫 (南3卒)

新宿御苑の西口門の真正面に立つビルの8階にある私の事務所からは、先端が槍のように突出したNTTドコモビルが御苑の銀杏の太木をまたいでよく見える。目を北西に転じると、新宿高島屋、小田急センチュリーサザンタワー、JR東日本本社ビル、さらに西側に京王プラザ、住友三角ビル、都庁等が錚々と立ち並び、現代建築の美観、偉容を誇っている。以前は内藤新宿の追分から分かれた甲州街道青梅街道に挟まれた淀橋浄水場の敷地であり、かつては私の事務所からも頭に雪をいただいた富士山が広重の絵(角筈能野十二社)に重なって遠望できたが、昔日を知る者には他国にでもきたような別世界に映るにちがいない。というわけで高層ビルが林立したため、私の密かな楽しみであった“眺望権”が奪われてしまった。しかし、この不満を建主につけるわけにはいかない。多数の人間が共存する都会で生活する以上、他者との権利の衝突はお互いに相当程度まで我慢する必要がある。所謂“受忍限度”という物差しがあって、その範囲内で自他の権利の均衡を図るのである。富士山は見えなくなったが、晴天の御苑の空は澄んで美しく、横に並ぶ高層ビルも天に映えて壮観である。御苑の樹木も四季折々に色を変え姿を変えて、仕事の疲れを癒してくれる。私にとってまさに御苑は地上の楽園であり、西新宿の高層ビル群は“私の隣人”である。職業とする弁護士の業務に従事できる間は、事務所に入りし、新宿の街との付き合いを続けたいと願っている。



## 気がかりな 超高層マンションの 建築ラッシュ

志田 隆康 (南4卒)

マンションは、全国で468万戸に達し、総人口の約1割の人が生活しています。ところがヨーロッパには、4階以上のマンションの建築を認めない国があり、4階以上を壊している例もあるということです。理由は、主に高層階に住む人の情緒不安定、子育て環境不適などの問題が指摘されています。一方わが国では、遊休土地の再利用を景気浮揚政策の柱にしたため、金融緩和時期とあいまって、空前の超高層ビル及び超高層マンションの建築ラッシュが起きています。デベロッパーの利益獲得優先と、建築家の設計視点だけのこれらは、終の棲家にする人が多くなっている実情から、将来大きな社会問題や政治問題になるのは必至です。



鎌水 一郎 (南3卒)

勤続47年、約半世紀にならんとしている今も現役、会社は偶然にも、東京同窓会報創刊号に掲載された吉良上野介邸、長谷川平藏、芥川竜之介の生家等が近所にあります。月2、3回のゴルフで体を鍛えています。



石垣 丘志 (南9卒)

私の住居は東京ベイ・ウォーターフロントの27階、昔から高い所が好きなので気に入っている。しかし先日の千葉地震では4機のエレベーターが全て止まりビックリ。引退したら郊外よりむしろ都心一、が私の持論ですが、せめて高さは3階程度にしておかないとどえらい事になる、と考えるこの頃です。







### 第二の故郷

飯島 寛 (南4卒)

父の仕事の関係で、終戦直後の昭和21年に廃虚化した東京から山形へ転居し南高卒業の29年迄の8年間、諏訪町の自宅の窓から朝に夕に千歳山を眺めつつ思い出多き青春期を過ごした緑豊かで人情味溢れる山形は私にとって、第二の故郷と云っても過言ではない。

約45年勤めた会社も昨年無事退職し、初めて体験する大きな自由時間を多少持て余しながら旅行やゴルフにと楽しんでいるが、その中で山南29会の浅黄兄を初めとする面々との交流は充実した後半生を過ごす為の大きな糧であり、会員各位の健勝と会の益々の発展を願わずにはいられない。



### “西高よりエール”

#### 剛気で気さくな叔父

佐藤 智子 (西高49卒)

南高と言えば叔父を思い出す。社会的地位を確立する前の叔父で、父から聞いた話で、南高時代タバコを吸って停学になり父が引取りにいったこと、応援団長で早大まで型を習いに行ったこと。“兄ちゃん、いるか”と大声で父を訪ねて来たこと。余り金もないのに“こずかいやるぞ”とくれたこと。忙しい時でも百本以上の盆栽に使い古しのジョウロで丁寧の水をかけていたこと。バンカラな中にもやさしさ溢れる叔父であった。(白井市、染色工芸家)

## 空はコバルト 元気でやってまーす



### 心の栄養

坂本 成子 (南6卒)

六南会(同期会)は、昭和58年発足以来、江口会長のご尽力により、今日まで継続している。

会長には、感謝、感謝である。同期会出席者全員で校歌を斉唱し、さらに大声で歌う空はコバルトは、明日へのエネルギーとなり肥やしとして心地よく吸収されていく。

ないのです。当大学にも教職員諸氏の先輩・後輩が約10名ぐらい、山形の社会・文化発展を夢見て頑張っており、そんなお手伝い出来るのは大きな喜びです。近年私事ですが、「老いは足腰から」と思い、3年前から元気に、遊び・働く為にジョギングをしております。マイペースで時間や距離をきにせず週1回汗を流すだけですが、実に楽しく麻薬となっています。今年初めて市民ランナーの競技会「東京シティロード・レース10Km」にエントリー、炎天下のなか完走し、時間57分39秒でした。輝いていたかどうかわかりませんが大満足です。キザですが人生はランナーです。

### 走りつづけています。

柴田 宏実 (南10卒)  
美術部

当時の山形南校は、スポーツが盛んで体育会系が多く、私は文科系の美術部で、夜遅くまで絵を描いていた者にとって、スポーツをしている人たちは輝いて見えたものです。現在も老兵のフリーデザイナー



ゼッケン No.6777が筆者

として、グラフィックデザインの職人として走り回っています。もともと「物づくり」は好きですが、勉強ざらい、団体行動も得意ではなく、一番嫌いな仕事が学校の先生でした、そんな無免許・無資格の私が13年前より、東北芸術工科大学で非常勤でコンピュータ教育の教壇に立って、お手伝いしている私自身がふしぎでなりません。しかしこれも私を育ててくれた、これまで仕事とは無縁な山形の地が、引き寄せている気がしてなら

### 空はコバルト

山田 勲 (南8卒)

勤め人10年独立して33年、広告一筋40余年。仕事は只今続行中。芝居見物月2回、週2日はジム通い、水泳、エアロ、ヨガ、ダンス。気分は青春真直中。



### マイライフ、イン東京

森谷 富次雄 (南18卒)

5年半前に、30年住んだ杜の都仙台から大都会の東京へ。熱帯夜の夏には、深夜もクーラーの世話になり、これには『参った』。旅の好きな私としては、杉並の社宅から『東京の四季』を求めて、湯島天神や神宮外苑を散策したりする。時には、足を伸ばして高尾山にも。交通の便の良さと安さが何よりの、イン東京です。





# 南高魂



## 豊かな想像力と気高い心 — 母校愛



### 山形と友と

丹野 益男 (二中 5 卒)

私は、平成元年4月から2年弱、山形地裁裁所長として勤務し山形に住むことができた。その間、私と同じ昭和19年に、当時の山形二中に入学した同学年の面々と月1回、酒を酌み交わした雑談するだけの会合を楽しみにした。その際、出席者全員と約40年の歳月を超えてすぐ仲良くなり談笑できることに、えもいえぬ感動を味わった。次に、山形の自然にも改めて感動した。殊に馬見ヶ崎橋付近で、印役町側の川原から眺める馬見ヶ崎川上流の景色が忘れられない。釜山と千歳山を分け隔てるように川が流れ下り、その背後にがっしりとして彫りの深い山容の瀧山が聳えている。曇天で雲がたなびいているときは一幅の墨絵を、晴天のときは美しい風景画を見る思いであった。このような感動を覚えたあの時期は、今にして思えば私にとり至福のときであったのかもしれない。



### 南高魂 IN 東京 がんばった事、とくした事

富木 政邦 (南9 卒)

昭和34年に南高を卒業(南高9回)後、上京して学業、就職といわゆるサラリーマンの道へと入ったわけですが、営業(製造業)を担当するにあたり、人との接触において、仕事上の知識、話題、事務処理、その他新しいものも含め、対応する為には、興味、努力、忍耐の頑張りが必要でした。頑張りの原点として、南高在学中に、卓球部に在籍し、インター杯県予選にて個人3位、団体優勝にて全国大会出場を果たし、ここに到る練習での頑張りがあったと思えます。

又、仕事上の話題性として、同期の大活躍(野球の甲子園出場、バドミントンの全国完全制覇、各部活の活躍)が話を進める上で、大変役に立ち、得をしたように思います。

現在まわりの同年代の集まりも、高校時代が中心となっているようで、我々も“おお、山形南(南高)その名ぞ我が母校”で頑張ってきたとおもいます。

母校の益々の発展を心より祈念いたします。

## 同窓会だより

### 19年組について

学年幹事 江口 文雄 (二高2 卒)



一般に学年毎の同窓会は卒業時の級友で組織されているが我々は入学年次の級友をもって山二中、二高の19年組と称している。その由来について述べる。昭和19年はまさに

太平洋戦争の真最中で、入学試験も山中(現東高)との総合考査試験であり(次年度と2回だけ)たまたま振り分けられ山南高を母校とした仲間である。入学時、旧制中学は戦争の影響で一時4年制の制度となったが戦後再び5年制に戻り、更に学制改革で新制高校に移行するなど目まぐるしく変わった。その結果修卒業年次が4、5、6年時と3回に分かれ、また疎開組の仲間との絆もありこのような形となったところである。現在教育界の大きな話題である中高一貫教育についてはそういう意味で結果的に最初に体験した。社会での仲間の活躍も多方面に亘っている。

現在東京の同窓生は50余名、年2回の例会をもって旧交を暖めている。千歳会長は我々の代表でもありさらに盛り立てていきたい。

# 人生意気に感ず!



## 巢立たせ、充実の日々

加藤 巖 (南9 卒)

私共夫婦は35年住みなれた千葉県流山から北陸能登半島の朝市で有名な輪島に住いを移して3年になりました。

過疎化の進んだこの半島の振興と活性化を目指して、平成15年7月に開港した日本航空大学の副学長と学園の常務理事として、学園運営と先生を務めております。

JALで42年間培った航空整備のノウハウをこの学校で学生に伝承し、人間味溢れる明日の航空エンジニアを育成し航空会社や重工各社の航空機部門に送り出しています。

田舎ですが能登の良さは食材と人にあると言えます。食卓には毎日地の旨い魚と野菜山菜が並び、素朴で穏やかな能登の人達との交流も広がり、楽しく充実した毎日で、しばらくはこの地で暮らしていく気持ちになりました。



## 生涯教育

平尾 眞次 (南10卒)

財団法人・野村生涯教育センターというボランティア組織がある。身の回りにも世界各地にも、さまざまな暴力や破壊が横行し、紛争が絶えない現今、人間性復活、平和社会の実現、人類と地球の未来のために最も肝要なのは人間教育である—という観点から、故・野村佳子前理事長が1960年代初めに活動を始め、「野村生涯教育論」を構築した。それは生涯にわたる自己教育・相互教育であり、東洋の自然観・人間観を基本理念とする。パリのユネスコ本部で4年ごとに国際フォーラムを開くなど、世界の多くの人たちにも影響を及ぼしている。

私は「子どもの問題」が実は「自分自身の問題」であると気づかされたことを契機に、妻とともにこの活動に参加し、迷走しながらも自分の人間作りに取り組んでいる。しばらくはこの地、佐倉で暮らしていく気持ちになりました。

## 華九あけび会

山口 健三 (南9 卒)



グアム島でのゴルフコンペ  
後列の左端が私

光陰矢の如し。南高を卒業して半世紀になんなんとしているが、自分がそんなに年をとったとは一向に感じられない。同期生も皆同じようである。

20数年前から、山形と関東でそれぞれゴルフコンペを開催するとともに、那須やスパリゾートハワイアンズで日本オープンと称して合同コンペを楽しんできた。そのうち海外オープンということになり、3年前からは、1月にグアムでコンペを行っている。

今年は思いがけず、レディス2名の参加。又同期の御子息が当地で結婚式を挙げ花嫁のお父さん、兄弟も飛び入り参加があり、大いに盛り上がった。初日は韓国の焼肉、2日目は中華そして3日目はステーキを楽しみ、ゴルフは帰国する午前中にもラウンド。4時半のフライトに間にあわせるべく、昼食は空港でとらざるを得なかったが、空高くそびえるヤシの木に囲まれてのビールの味は格別であった。

在学当時無所属だった身としては「文」はともかく「武」の伝統だけはできうる限り守っていきたいと思っている。



# 母校だより

生徒会長 石垣 健郎 (3年)

同窓会報創刊、誠に目出度うございます。南高生は卒業しても南高生、東京に行っても南高生。故郷から遠く離れた東京でもこの様な同窓会活動が出来るといっても、また南高の素晴らしさであると感じました。我々が様々な夢と不安を抱いて上京した日には是非仲間に入れて下されば幸いです。



新聞編集部部長 今井 健治 (2年)

「東京同窓会報」の御創刊、誠にありがとうございます。

我々南高新聞部も先輩方同様、手が足りず、縮切りとの闘いです。しかし、それでも足を使い、何より自分達が楽しんで書く新聞作りをしています。先輩方に負けないよう、今まで以上に努力を重ねていこうとおもいます。

## 平成16年度 収支決算書

収入				
項目	予算額	収入額	増減	摘要
総会費	1,450,000	1,305,000	△145,000	10,000円×129人
年会費	500,000	127,000	△373,000	5,000円×3人
寄付金	45,000	115,000	70,000	1,000円×124人
繰越金	346,704	346,704	0	
繰入金	0	87,505	87,505	会旗募金残
広告協賛	100,000	90,000	△10,000	
計	2,441,704	2,071,209	△370,495	

支出				
項目	予算額	支出額	増減	摘要
会場使用料	20,000	20,000	0	総会会場(11/29)
懇親会経費	900,000	843,929	△56,071	
会議	200,000	188,910	△11,090	役員会
総会案内経費	360,000	327,172	△32,828	
名札印刷経費	25,000	21,000	△4,000	
プログラム印刷経費	125,000	124,950	△50	
振込用紙印刷等経費	300,000	0	△300,000	
助成費	50,000	0	△50,000	
事務費	150,000	87,865	△62,135	
東京同窓会会報	70,000	70,525	525	
通信費	50,000	0	△50,000	
予備費	191,704	0	△191,704	
計	2,441,704	1,684,351	△757,353	

収入総額 - 支出総額 = 差引  
2,071,209 - 1,684,351 = 386,858 次年度繰越金 386,858

### 編集後記

やっとのことで2号上梓、先輩の指導を受けたものの、うまくいったかどうか。創刊号への千歳会長の励ましが心の支えになりました。前号では積み残したものの、不備なものがあり、少しは解消。簡潔な文章は生の声が伝わらず、長い文でも活々しているので切るわけにもいかず、苦心のしどころ。結局は“発行することに意義がある”のオリンピック方式。たくさんの原稿をありがとうございました。南高の心よ、秋空の天に舞い上れ!!

会報編集者 鈴木 隆 (南9卒)

(第3号の記事募集 — 150字程度、写真1枚、テーマ自由)

編集連絡先 千葉県船橋市東船橋 1-37-7 東船橋不動産内 TEL 047-424-7200 FAX 047-424-7201

## 在校生より東京の先輩へエール

(特別依頼しました)

### 会報創刊号を読んで



山形南高教職員 菅野 広次 (本校28卒)

南高の先輩達はすごい。これが読後最初の感想でした。特に4頁~7頁にかけての、先輩達の足跡や近況には胸を打たれ、今私が教えているこの生徒達と、各地で活躍していらっしゃる先輩達が繋がっていることを実感させられました。私達教職員も、先輩達から残していただいた伝統を守りつつ、南高の益々の発展に尽力して参りたいと存じます。今後とも宜しくお願ひいたします。



## 慶弔のお知らせ (山形のみまで記載)

物故者 (敬称略)

旧職員 17年8/5 河合 吉栄 (英語) (S.22.1~48.3)

同窓会員

- 16年 10/17 大風 茂雄(二高2回) 10/22 近江 守(南3回)
- 10/24 黒沼 勝治(南6回) 10/26 渡辺 勝義(南2回)
- 10/29 佐藤 雄一(南3回) 10/31 斉藤 要(南2回)
- 11/1 富樫 展康(南8回) 12/9 坂本 芳広(南21回)
- 12/24 新関 宏(二高4回) 12/31 小出 毅(南11回)
- 17年 1/15 松田 紀雄(南11回) 1/16 板垣 芳樹(南16回)
- 2/9 中村 靖彦(南2回) 3/7 寒河江 俊久(南33回)
- 3/19 梅津 庄四郎(南5回) 4/2 齋藤 紀一郎(二中1回)
- 4/14 小泉 博一(南12回) 6/2 黒木 理太(二中1回)
- 6/6 飯野 研一(南9回) 6/20 秋葉 仁志(南11回)
- 6/25 酒井 忠義(南8回) 7/3 会田 茂二(南2回)
- 7/15 神尾 英雄(南13回) 7/26 小俣 信(南12回)
- 8/1 柏倉 八郎(二中4回) 8/14 鈴木 康之(南11回)
- 8/21 尾形 清夫(二中4回) 8/23 今野 正義(南12回)
- 8/23 武田 基嗣(南47回)





### 燃えよ! スポーツ山形

山形県体育協会 会長  
金森 義弘

副知事在任中は、山形南校東京同窓会の皆様にご多大のお世話になりこの紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

2月に退任し直ちに小生の母体でもある山形県バドミントン協会会長を引き受け4月には山形県体育協会会長のご推挙をいただき、就任いたしました。副知事時代に兼任をしておりましたプロサッカーJ2モンテディオ山形と1月京都で開催の全国女子駅伝に参加する山形女子駅伝チームを運営している社団法人スポーツ山形21の理事長も引き続き担当をし結構忙しい日々を過ごしております。本県のスポーツ界は今明るい話題が多く活況を呈しており、天童を拠点の東北パイオニア女子バレー部がVリーグ優勝、プロサッカー「モンテディオ山形」1試合平均昨年は6,000人の観客を動員、今年から楽天イーグルスの2軍の本拠地が山形に決定、県内でプロ野球イースタンリーグが数多く開催され、中高校生に大きな刺激を与えていております。高校野球も今年春の甲子園で初のベスト8に入り、スピードスケートでは明年2月トリノ五輪に山形市出身の加藤条治選手が内定するなど数多くのスポーツに関する話題で賑わっており県民に大きな勇気と希望を与えております。これらはほとんどが平成4年開催の「べにばな国体」を完全国体で実施したことに起因しており小さな県でありますが高齢化時代に入り生きがいづくりと特色あるスポーツ県づくりに微力ながら最大の努力をして参りたいと考えております。東京からご声援とご支援を宜しくお願い申し上げます。金森義弘会長は南高9回卒です。

### モンテディオ山形へご支援を

「モンテディオ山形」を皆んなで支えよう  
山形県人の誇りを持って、応援しよう

J118チーム、J212チームの中で山形のみ会社方式でなく会費制です。県民の拠金で成り立ち南高OBが主力で運営しています。

(理事長 金森義弘 南9卒、業務部長 長岡啓行 南18卒)

後援会員 一口 金10,000円

連絡先 社団法人 山形県スポーツ振興21世紀協会

〒990-2412 山形市松山2-11-30-3F ☎ 023-635-9290

### 私の海外体験

工藤 浩 (南1卒)

人生には些細な事が転機となることがある。農林省農地局に技官として奉職した私は英語研修を受けたものの海外とは無縁であったが、突然1983年に仏、伊、オランダ行きを命ぜられ、人工地下水涵養等の地下水事情の視察を命ぜられた。突然の発令なので大いにあわて、混乱したが、始めて海外に出て眼から鱗…であった。次はセネガル、タイ、インドネシア、そして農業アドバイザーとしてカンボジアへ。この16年で現地の事情を視察したのは勿論、非常に幅広い人間関係もでき、異文化も吸収できた。外国文化は理解できてもできなくても、常に交流し、尊重すべきものと思う。



### ☆☆☆☆☆☆ 広報からのお知らせ ☆☆☆☆☆☆

—第2号を皆さんにお届けします—



副会長 吉野 禮三 (南3卒)

昨年、創刊号を手にしたとき、東京同窓会も再開はしたが、これから先、どうなるのかという多くの方の不安は、どこかへ吹っ飛んでしまったのではないだろうか。総会への出席者が全会員の1割にも満たない現実をふまえて、東京同窓会の灯を絶やさないために、財政基盤の確立、学年幹事会の開催など着々と手を打ってきたが、この会報が、会員の皆様とのコミュニケーションを図る場として、大いに活用されることが、同窓会活動の活発化に貢献すると固く信じています。

故郷に思いをはせるとき、雄大な山形の山なみと、多くの友人こそ我が人生の宝だと思っている。青春の舞台となった南高生活の思い出や、その後の交友などを記録にとどめ、後輩の皆さんに伝えよう。また後輩の諸君からは、自分たちの時はこんな風に変わったよと年寄りに伝えてほしい。また、在学生と同窓会の交流ができれば、なおすばらしい。

### 東京同窓会役員 (平成17年9月現在)

会 長 齊藤常男 (南5卒)

副 会 長 椿 尋昭 (南1卒) 土屋裕司 (南2卒) 吉野禮三 (南3卒) 浅黄優喜 (南4卒)

常任幹事 江口光夫 (南6卒) 山田 勲 (南8卒) 鈴木 隆 (南9卒) 栗原 将 (南12卒) 安孫子雅俊 (南29卒)

高橋健一 (南33卒) 渡辺弘樹 (南35卒)

会計幹事 加藤忠利 監事 豊田恒雄 押野哲男

顧問 会田雄亮 丹野益男 渡辺幸雄 森谷 亨

事務局 伊藤正弘 加藤康士 佐藤哲也